

# 3月下旬まで 戊辰戦争パネル展

## 寺内町会館で会津若松市交流事業

### 御坊市

幕末の鳥羽伏見の戦いで敗れ、紀州に落ち延びて御坊市湯川町小松原の中吉旅館で命を救われ、同旅館主

人の中野吉右衛門と交流を続けた会津藩士で「会津の知将」と称される山川浩の縁がきっかけとなった御坊

市と会津若松市との交流事業で、9日から御坊寺内町会館でパネル展「会津藩士の戊辰戦争〜紀州(御坊)の人々に助けられた会津藩士」が始まった。3月下旬まで行う。

会津若松市が昨年、15

〇周年記念事業で展示した戊辰戦争に関するパネルを借り受けて御坊寺内町会館に展示。パネルは10枚(1枚縦60センチ、横80センチ)あり、会津藩主松平容保が京都守護職に任命され、鳥羽伏見の戦いなどを経て会津藩が斗南を揮領するまでの会津藩士の行動や出来事を解説。山川浩の経歴や功績、命を助けられたエピソードをまとめたパネルもある。関連資料も展示している。

山川浩から中野吉右衛門

に贈られた大皿(九谷焼)や会津塗りのわんなどゆかりの品が、昨年1月に中吉旅館子孫一同から戊辰150周年記念を迎えた会津若松市の室井照平長に寄贈された。これをきっかけに御坊市の龍神康宏副市長が会津若松市を訪れ、交流促進を打診。5月に室井市長が御坊市を訪れ、柏木征夫市長と交流促進を確認。ゆくゆくは姉妹都市協定やパートナーシティ協定につなげたい考え。



戊辰戦争パネルや伊藤博文の書を展示

## 初代総理伊藤博文の書も展示

### 市文化財指定でレプリカ作製

市教育委員会が、市指定文化財の有形文化財(美術工芸品)に指定した初代内閣総理大臣・伊藤博文の書(市所有)のレプリカも寺内町会館に展示した。

黒塗枠に金箔地和額表装で、縦35・5センチ、横14・2センチ。「御坊疊(御坊校)の文字を右書きし、長年、御

坊小学校長室に掲げられていた。山川浩が明治21年に学事巡視で御坊に来ており、親交のある伊藤博文に依頼して揮毫された可能性が高いとされている。

教委は「御坊の文字があり、市にとって価値のある貴重な文化財」とし、レプリカを2つつくり、御坊小

校長室と寺内町会館に展示し、本物は市が保管する。あわせて、往生寺(湯川町財部)が所蔵する会津藩士の書のレプリカ(縦40センチ、横100センチ)も展示。代々会津藩士から贈られた書であると言い伝えられ、落款などから会津藩士丸山抱石の書であると思われる。

寺内町会館の開館日は毎週火・金・土・日曜日と祝日。開館時間は午前11時から午後4時まで。